RECOVER [ファイル名] ;

機能:

RECOVER は以前に中断した TSP セッションからコマンド列を回復します。

使用法:

RECOVER によって、以前のセッションでの一連のコマンドを異常終了した時点で回復させることができます。ほとんどの場合 TSP は自動的に中断したセッションを回復しますから、このプロシジャーは必ずしも必要ありません。しかしながら、もしディレクトリを変えたり、INDX.TMP の名を付け変えたりしますと、セッションを回復するのにこのプロシジャーを使わなくてはなりません。

回復する過程では、入力したコマンドをリストアしますが、それらを実行しません – 長いセッションの場合これはコストが高くなりますから、必ずしも全部の結果を複製する必要はありません。そこで、回復後にセッションを REVIEW し、それから処理する必要がある行の区間を EXEC することを強く勧めます。

対話型セッションの間、TSP は現在のディレクトリーに INDX.TMP ファイルを作り、それまで入力した全てのコマンドを特別なフォーマット (番号付き、キー付き入出力) で書きこんでいます。このファイルは、REVIEW, EDIT, EXEC, 等々ではいつでも参照されます。プログラムを正常に終わると、このファイルはコマンドを含む BKUP.TSP という順ファイルを作るのに使われ、INDX.TMP は削除されます。プログラムが異常に終了すると、INDX.TMP はそのまま存在し、BKUP.TSP は作られません。対話型 TSP をスタートする度に、INDX.TMP ファイルが現在のディレクトリーにあればこのファイルの回復が自動的におこなわれます。

このコマンドによって別のファイルを回復する場合は、そのファイルは TSP によって INDX.TMP ファイルとして作られたファイルでなければなりません。

RECOVER に対するファイル名は、INPUT や OUTPUT と同じ方法で行います。コマンド行にファイル名を書いてもよいですが、別のディレクトリーにあるファイルや、違う拡張子のついたファイルを回復したい時には、それを促進するようにすることができます。